

令和7年3月19日

人吉市議会議長
宮原 将志 様

総務文教委員長
松村 太

公共交通のあり方に関する提言書

本委員会では、超高齢化・人口減少などの現状を踏まえ、復興から新しいまちづくりへと地域全体で自発的な活動が促されるとともに、多様で幅広い世代が自主的に、自由かつ継続的に活動できる生活環境整備を目的とし、市民の自由な活動を支える本市の公共交通であるコミュニティバス「まめバス」について調査活動を行った。

本市においても高齢化の進行や、地域性による、ひとり1台の自動車生活の定着などの要因もあり、公共交通の利用者が減少し、地域公共交通の維持が困難になってきている。しかし地域公共交通の必要性が低下していくわけではなく、急速な高齢化などにより自動車を運転できない方たちの代替交通手段へのニーズをはじめ、誰もが自由に移動できるまち、人々が自らの意思で生活できるまち、環境にやさしい移動手段が確保されたまちをつくることは「住み続けたいまち ひとよし」のためにも、その重要性はこれまで以上に増している。

それに応えるためには、地域公共交通を運用・維持していく目的が重要であり、地域のニーズにも合致したものにしていくことが必要である。これには行政や交通事業者による取組だけでは限界があり、利用者をはじめとした地域全体でも活発な利活用の役割を分担し、協働していくことが必要である。

これらを踏まえ今回の調査結果をまとめ、本委員会として下記の事項について提言する。

提言1 まめバス(コミュニティバス)の市民認知度・利用促進の向上を図る

- ・運行路線の周知を行う。(路線図の作成・配布。行先・路線別の番号や色表示で分かりやすく区別する。)
- ・路線地域への運行時間のマッチング調査を行う。(路線図と合わせて周知も行う。)
- ・路線の適正化のための、利用者・沿線住民のニーズ調査を行う。(バス停の位置など使いにくさも調査する。)
- ・「まめバス」の名称を市民から募集して愛着の向上を図る。
- ・ラッピングバス運行等企業広報活動の一助とする。(観光者向け特典付き乗車券など)
- ・幼稚園・保育園・こども園・小中学校など各団体のバスの体験試乗会を開催する。
- ・各種イベント時の低料金設定などの体験試乗機会を創出する。

提言２ ニーズに応じた路線・交通手段の再検討に努めること

- ・交通空白地区から市中心部への移動だけでなく、近隣の生活圏の利活用向上も包含する視点で検討する。
- ・交通空白地区住民の移動手段に留まらず、市中心部での市民の足としての利便性向上を図る。
- ・始発拠点整備と乗り継ぎ回数減や乗り継ぎ地点の整備等の利便性向上を検証する。
- ・行政と事業者、そして開かれた市民との意見交換の機会を設置する。

提言３ 福祉的視点による利便性向上への転換

- ・移動困難者である個人に向けた支援に重点を置く。
- ・デマンド交通の有効性を検証する社会実験を実施する。
- ・ドアツードアのための助成制度を検証する。
- ・公共交通利用への年齢等による助成制度を拡充する。
- ・乗合タクシーのフリー乗降区間の延長等を検討する。

各項に示した取組を、速やかに全庁横断的に協議・検討し、各交通事業者と市民と合わせた地域公共交通でのそれぞれの役割と連携し、リーダーシップを発揮することを求める。